

## 鈴大敷網「鈴丸」進水式

鈴共同大敷組合の「鈴丸」がこのほど新船となり、4月20日(火)、鈴市場前で進水式が行われました。同組合では、以前より水揚げを多くするための方法を調査してきており、その手段のひとつとして、今回、国の事業を活用し船を新しくすることとなりました。

新船は長さ22m、約17tで、進水式では神事が行われた後、実際に漁場まで船を出港させました。

鈴の大敷網は約60年の歴史があり、取材時にはアジのシーズンを迎えていました。



新船「鈴丸」



神事に参加する組合員ら

先長の浜田政彦さんは、「船が新しくなり、網を揚げる時に傾く心配もなくなっただけでなく、まずは魚をこれまで以上に獲ることが目標」と話しました。

## 佐賀保育所園児らが稚アユ放流

不破原地区の伊与木川で4月30日(金)、佐賀保育所の園児ら21名が稚アユの放流を行いました。

この取組は、「佐賀の伊与木川を守る会」の主催で平成24年から行われており、今回で8回目。体長10cmほどの稚アユ2千500匹を同会のメンバーらが小さなバケツへ移し、園児らは順番に受け取りゆっくりと川へ放流しました。放流後には、「アユはぬるぬるしていて、川へ流すのが楽しかった」「お魚さんたちに大きくなってほしい」などと笑顔で感想を話しました。



アユを放流する園児ら

## まほろば Vol.11 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



### 農事組合 蛸川 代表 杉本 憲司さん

地域の若者へ声を掛け、同組合を発足。自身は高知市出身で約13年前に黒潮町へ移住。文旦・ミョウガ農家へ弟子入りし、2年半の研修期間を経て独立。現在は、グリーンレモンとミョウガ農家として働きながら、地域の宝を次世代へつなげるため、組合での活動を行う。プライベートでは、消防団(蛸川分団)、黒潮若手の会にも所属。

動き出したのは一昨年。地域の人が少なくなってきたことから、耕作放棄地が増えてきていることから、「このままいけば、せっかく使える土地も山に還ってしまう」、そう感じました。

また、以前より所属している蛸川の消防団員に30、40代が多く、元々仲も良かったので、「人がいなくなってしまうのは動けない」、その思い、若い世代のみんなに声をかけたら集まってくれました。メンバーは8人。農家がほとんどですが、養鶏家や土木職、民間企業に勤める人もいます。色んな能力やアイデアが集まっていて、作業もアグレッシブに動いてくれます。でも、それぞれ本業は別にあるので、「地域の耕作放棄地を片手間で活用しながら活動しています」。

これまでの活動の様子を教えてください。

個人的に所属している「黒潮若手の会」で、子どもたちにサツマイモの収穫を体験してもらおうと農業イベントがあり、そこにヒントを得て、昨年3反の耕作放棄地でサツマイモの栽培を始めました。「片手間」で行うには、手間がかかり過ぎないことと買い手がほしいことが条件で、サツマイモはその条件に合うので、「これなら利益が見出せるのでは」と思っています。

### 「農事組合蛸川」が今後めざすものは?

耕作放棄地を活用したこの取組で、土地や地域を次世代につなげたい、そう思っています。今、私たちの世代が手をにぎって動いていけば、いつか子どもたちが黒潮町に帰ってきたときに、つなげていけると思うから。ふさふさの畑を渡してあげたい、そう思います。



昨年収穫したニンジンイモ



畑で作業をする組合員ら

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介します。裏表紙のQRコードからご確認ください。